

令和3年度第2回四街道市特別支援連携協議会（書面開催） 意見等まとめ

議題1 令和3年度の成果と課題について

<特別支援連携協議会>

○ 医療、福祉、保育等の専門家の意見や考えを聴くことができ有意義だった。課題にあったとおり、さまざまな角度から得た情報をどう組み合わせ、また整理して支援体制につなげるのかが難しいと感じた。人材豊富な四街道市の特別支援教育の発展をお祈りしている。（古川委員）

○ 課題施策への取組は、四街道市のこれまでの取組を鑑みつつ、現在のニーズにあったものへと転換していくことが必要なのかもしれない。本会にかかる軌跡＝成果を一望することで、会議資料も見直すことも可能と考える。（日下委員）

○ 重要なことは、校内体制を整備し、改善を図り、組織的に対応できるよう、また、関係者が一人で抱え込むことがないようにしていきたい。連携協議会とおして、関係機関や異校種の方々との意見交換を引き続き大切にしていきたい。（張能委員）

○ 特別支援関係で市の各機関、組織の代表を集め、様々な立場、方面からご意見がいただける。各機関、組織内の連絡が取れるとよい。内容、時期、回数において、問題ない。コロナ禍が続くようなら、リモートでの開催も可能な範囲で視野に入れてもよい。（寺尾委員）

○ 第1回特別支援連携協議会では、各機関と話し合いができ有意義だった。可能であれば、年に2～3回できるとよい。（石原委員）

○ 一人一人に合った進路を見つめるために、それぞれの機関とネットワークができていること、情報交換、共有ができていることを嬉しく思う。（木内委員）

事務局：特別支援連携協議会は、関係機関の所属長等が一堂に会し、四街道市の特別支援に係る連携の仕方等において、それぞれの立場からご意見をいただく貴重な場であると考えています。そのため、年に2回の開催を、可能な限り情報交換のできる形態で実施できるよう努めてまいります。

また、ICT の活用などの時代のニーズに合った内容を研修に組み込むなど、学校が ICT を効果的に取り入れる授業改善ができるよう、支援に努めてまいります。

<特別支援教育連絡会議>

○ 特別支援教育連絡会議課題でもあげられているとおり、ICT 機器を活用した実施をご検討いただけたらと思う。また、研修、会議等はハイブリット方式も有効ではないか。県立四街道特別支援学校の施設参観等、遠隔での参観も一緒にご検討いただけたらと思う。
(日下委員)

○ 第3回特別支援教育連絡会議では、オンラインでの開催による講話であったが、大変参考になった。今後も会場開催以外にもオンライン開催を取り入れていただければ幸いである。
(只野委員)

○ 第3回特別支援教育連絡会議では、オンラインでの開催であったが、今後も活用していただけるとよい。その際は、手元に資料があるとよかった。
(山田委員)

○ 今後も特別支援学校の先生方の話を伺える機会をいただきたい。
(寺尾委員)

事務局：特別支援教育連絡会議では、第3回をオンラインでの開催とさせていただきます。参加人数が多いため、オンラインにおける準備・手順等に負担をかけてしまうことも想定されますが、今後は講話のみならず、グループでの情報共有ができるような形態も取り入れていくよう努めてまいります。また、第3回は急きょオンラインでの開催となったため、今後は、オンラインでの開催も視野に準備を進め、オンラインでの開催のなった場合の手順等も事前にご案内できるよう努めてまいります。また、遠隔等での施設、授業参観のご提案もありがとうございます。参加者の皆様にとって、より有意義な研修等になるよう多様な形態での企画運営にも努めてまいります。

< 専門家チーム、巡回相談員等 >

○ 実際に学校等への訪問ができる専門家チーム等からの助言により、学校生活に即した児童への対応ができると思う。学習障害等の支援の仕方等、得意分野がそれぞれの先生にあると思うので、困りごとの種類により、担当者を選べることはできるのではないか。通常学級や支援学級での指導にスムーズにつながれるとよい。
(藤原委員)

○ 「未就学児のスムーズな就学」について、就学後にも相談窓口として、巡回相談員等に短い期間に巡回をしてもらえると現場としてありがたい。
(寺尾委員)

事務局：専門家チームの先生方には、どのような困り感に対する支援方法の助言をいただけるのかを会議や研修等で案内していくよう努めてまいります。また、例年、巡回相談員が学校を訪問し、支援体制等の指導助言を行ってまいります。隔年で小学校・中学校と訪問していますが、派遣依頼があれば、どの学校でも訪問し、指導助言を受けることができることも積極的に呼びかけてまいります。

< 発達検査 >

○ 発達相談に関する課題としてあげられている「学校でも発達検査を実施できる教職員の育成」についてだが、教員が各検査についての知識を持つことは大切だが、臨床経験の少ない者が結果を正しく読むことは難しいかと考える。
(日下委員)

事務局：学校でも発達検査を実施できる教職員の育成については、日下委員のご意見も踏まえ、検討してまいります。

<にじいろサポート>

- 「にじいろサポート」について、病院に「にじいろサポート」を持ってくる方がいないことに気付いたので、積極的に「にじいろサポート」や教育支援計画を見せてもらえるよう声をかけたい。
(藤原委員)
- 「にじいろサポート」は、支援学級在籍児童のみならず、通常学級在籍児童に対しても大変有効である。今後とも使い方を校内で研修していきたい。
(寺尾委員)
- 「にじいろサポート」の活用がこれからも継続していけることを望みます。
(木内委員)

事務局：関係機関、全体でお声かけいただけるとありがたいです。事務局としても今後も特別支援関係の会議や研修会で、児童生徒と関係のある機関全体で同じ方向を向いて支援できるよう積極的な活用を呼びかけてまいります。

その他のご意見等

- 本会には、四街道市学校法人立幼稚園協会加盟園で輪番制での参加になっている。園によって、様々なので、「参加園の取り組みが幼稚園の取り組み」と一括りになることを危惧している。

事務局：幼稚園等で、それぞれ取り組みが違っていることは承知しています。今後も、出席していただいた委員が所属する園の考えや取り組み等を積極的に述べる場になるよう努めてまいります。